

【課題】指導教員と相談の上で設定した研究テーマに取り組む。取り組みは次の要素で構成される。研究課題（研究の問い）を理解するための調査、実験や解析の計画立案、実験や解析の実施、実験や解析の結果整理、そして、整理した結果を客観的に検討、考察し、まとめた結論、である。最後に、一連の取り組みを1ページの概要資料（発表予稿）にまとめた上で、教員と学生に向けて、スライドを用いた10分程度の口頭発表を行ない、質疑応答する。

	優秀	良好	やや改善が必要	根本的な改善が必要
研究課題（研究の問い）の理解と自身の具体的な課題の理解	自分自身の課題が何を解決しようとするのかを明確に述べた上で、その研究分野における自分自身の課題の位置づけについても明確に述べられている。	自分自身の課題が何を解決しようとするのかについては明確に述べられているが、その研究分野における自分自身の課題の位置づけについては述べられてはいるものの不明確である。	自分自身の課題が何を解決しようとするのかについては明確に述べられているが、その研究分野における自分自身の課題の位置づけについては述べられていない。	自分自身の課題が何を解決しようとするのか不明確であるか、まったく述べられていない。
発表の構成と内容	専門外の教員や学生に配慮した導入、背景説明を行なった上で、自身の研究の目的、意義（新規性や独自性）、結果、結論、残された課題が明確に述べられている。	自身の研究の目的、意義（新規性や独自性）、結果、結論、残された課題が明確に述べられているが、専門外の教員や学生に配慮した導入、背景説明は不十分である。	自身の研究の目的、結果は十分に述べられているが、結論、残された課題が不明確であったり、専門外の教員や学生に配慮した導入、背景説明が不十分である。	自身の研究の目的、結果が十分に述べられていない。
引用による、研究の位置づけの明確化	研究室外の研究を引用した上で、自身の研究との関係が明確に述べられている。	研究室外の研究が引用されており、自身の研究との関係に言及してはいるが、明確には述べられていない。	研究室外の研究が引用されているが、自身の研究との関係が述べられていない。	研究室外の研究が引用されていない。
質疑応答の適切さ	質問の意図に沿った、かつ、自身の研究を十分に理解していることが伝わる的確な回答ができた。	質問の意図に沿った回答ができたものの、自身の研究の理解が十分とはいえない回答であった。	質問の意図は把握できたようだが、回答が的確とはいえなかった。または、質問の意図を誤解した点はあったものの、自身の研究をよく理解していると推察される回答ができた。	質問の意図が把握できなかった上に、自身の研究の理解に疑問が残る回答であった。
発表予稿の適切さ	事実と意見が区別された記述がなされており、かつ、先行研究や関連研究が引用されている。	事実と意見が区別された記述がなされているが、先行研究や関連研究が引用されていない。	事実と意見の区別が曖昧な点があるが、先行研究や関連研究は引用されている。	事実と意見の区別が曖昧な点があり、かつ、先行研究や関連研究が引用されていない。